



いまなか まいこ
今中 舞衣子 准教授

“ 出身地

和歌山県橋本市

古くから高野山のお膝元と呼ばれてきた地域にあります”

専門分野

言語教育学、フランス語教育

Q 担当科目を教えてください。

A

【言語教育学】

言語を教えたい学生や言語についての研究を進めたい学生、自身のことばの実践についてより深く考察してみたい学生を対象とし、言語の教育／学習について多角的な視点から考察できるようになることを目的とする授業です。

【フランス語1・2】

初歩的なフランス語のしくみと会話表現をアクティブに学ぶ実践的な授業です。フランス語による少人数での表現活動、コミュニケーション活動を重視しています。

Q 専門分野に関する研究テーマの魅力を教えてください。

A

言語教育学は、ことばを教えることや学ぶことについて深く考えるための学問です。研究を進めながら、その成果を日々の教育実践にも生かしていけるところに面白さがあると思います。例えば私は今、フランス語圏のミュージアムで実施されているフランス語教育プログラムをテーマに研究をしています。調査で得られた知見は実際にフランス語の教材を作成する際や授業をデザインする際にも応用することができます。学生のみなさんからの声を研究に生かしていけるのも魅力です。

Q

先生の人となりをお教えてください。

A

「今だから言える先生の学生時代のエピソードは？」

中高生の頃からフランス語の音が好きで専門的にフランス語を学ぼうと大学に入りましたが、入学当初はバンド活動にのめり込んで勉強もせず毎日ドラムばかり叩いていました。大学三年生のときフランスに留学したことをきっかけに、教育と研究の道を志すようになりました

「人生で一番感動した時」

ウィーンのレオポルド美術館で初めてグスタフ・クリムトの「死と生」という絵を見た時です。当時は学生でクリムトのことをよく知らなかったのですが、ぐっと心ひかれるものがあり、2時間くらい同じ絵を見ていました。

「お休みの日には何をされていますか？」

長期休暇でゆっくり時間がとれるときは旅行に出ることが多いです。これまで30以上の国を訪れました。コロナ禍以降は自宅にいる時間が増えたので、よくギターの練習をしています。

Q

学生のみなさんへメッセージを！

A

今、興味を持っていることを私たち教員に教えてください。あなたが心ひかれているそのこと／モノ／人は、きっと面白い研究の種になると思います。それから、大学ではぜひ新しい言語を学んで、できれば行ったことのない国での生活を体験してほしいです。異なる複数の視点を持つこと、知的好奇心を養うことは、きっとあなたの今後の人生を豊かにしてくれると思います。